

# はじめに

～少年犯罪と「あの家に帰りたい」～

その猟奇で残虐な事件は、少年による犯罪であった。「酒鬼薔薇聖斗事件」が重たく蘇ってきました。

マスコミは埼玉県三郷市（11/18）、千葉県松戸市（12/1）の通り魔事件で逮捕された少年が、「動物を殺したので次は人間を殺すつもり」「ナタは歩いている人を殺そうと思って持っていた」と報じました。

福島県第一原発のある福島県双葉町から避難している塩津小学校6年生（廣田光希君）の作文が、木の家をテーマにした児童コンクールで国土交通大臣賞を受賞しました。「あの家に帰りたい」 福島から蒲郡に避難 廣田君の作文、最高賞 の見出しで新聞記事になったのは、三郷市事件前の11月16日でした。

さっそく、作文タイトル「あの家に帰りたい」を読みました。400字詰め原稿用紙3枚に東日本大震災を背景として書かれたその内容は、廣田君が生まれ育った双葉町での生活を十分に想像させるものでした。詳しい内容には触れませんが、その1200字は書かれたものというより、語られているという表現のほうがふさわしいように感じます。淡々としたその文章の流れは、不思議と心に迫り読み手を引きつける何かがあります。地震の被害の甚大さや、原発の恐ろしさがとうとうと述べられているのでなく、なぜか廣田君を包んでいる普通の生活が木の家とその文脈の力で語られ想像できるのです。（だから、このような最高賞をいただけたと思うのですが）

私は今回、悲惨な事件を知り、作文「あの家に帰りたい」と出会ったことで、廣田君に淡々と人を引きつける文章を語るがごとく文脈で書かせたものがわかったような気がします。残虐な少年犯罪については、恐らく今後、少年の人物像が明かされて、事件にいたった経緯が精神の有り様で語られるものと思われませんが、家族や友達がいて、お互いをつなぐ地域、自然があれば、相手を思う心が育ち、犯罪はおこらなかったと思いたいし、そうした「絆」が廣田君の体全体に覆われているからこそ、大震災、大津波、原発事故が重なる未曾有の大災害を乗り越えて、作文「あの家に帰りたい」が語られたのではないのでしょうか。青少年健全育成地域活動推進事業は、犯罪に染まる青少年はつぐらなない、優しく思いやりのある若者の育成、まさに廣田君のもつ心と生き方を育成することだと思えます。

最後に作文はこう結んでいます。「家で過ごした、思い出がたくさんよみがえってくるととても悲しくなる事もあるけど、『家はしっかり建っている』。その事がぼくの心を安心させて、しっかりと支えてくれています。家に帰る日まで。」

結びになりますが、青少年健全育成地域活動推進事業に献身的にご努力いただいています。皆様方に感謝申し上げますとともに、今後も青少年の健全育成に温かいお力添えをよろしくお願い申し上げます。事業の更なる充実発展を心より祈念いたしております。

平成24年2月

蒲郡市教育長 廣 中 達 憲

# も く じ

は じ め に

平成 23 年度 青少年健全育成地域活動推進事業 1

平成 23 年度 青少年健全育成協議会・地域ふれあい活動 2

1 大 塚 地 区 3

2 三 谷 地 区 7

3 蒲 郡 地 区 11

4 中 部 地 区 16

5 塩 津 地 区 20

6 形 原 地 区 27

7 西 浦 地 区 35

平成 23 年度 地域安全・青少年健全育成市民大会 39

大 会 宣 言 40

小学生・中学生・高校生の意見発表 41

蒲郡市子ども・若者育成支援の取組 55

お わ り に